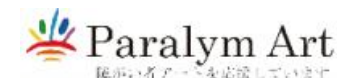




個人投資家向け 会社説明会

2024年12月5日

昭和産業株式会社
<https://www.showa-sangyo.co.jp>



■ Agenda

- I. 昭和産業グループの概要
- II. 昭和産業グループの成長戦略
- III. 業績・配当予想
- IV. 株主優待制度・お知らせ

I. 昭和産業グループの概要

会社概要



商号	昭和産業株式会社 Showa Sangyo Co.,Ltd.
本社所在地	東京都千代田区内神田2丁目2番1号
設立	1936年2月18日
資本金	14,293百万円
主要事業	小麦粉、植物油、糖化製品、二次加工食品などの製造販売、配合飼料の販売、倉庫業など
従業員数(連結)	2,858名 (2024年3月末現在)
グループ会社数	46社(子会社31社、関連会社15社)

昭和産業って知っていますか？

世界で初めて天ぷら粉を発売

家庭用ホットケーキミックス 国内シェアNo.1



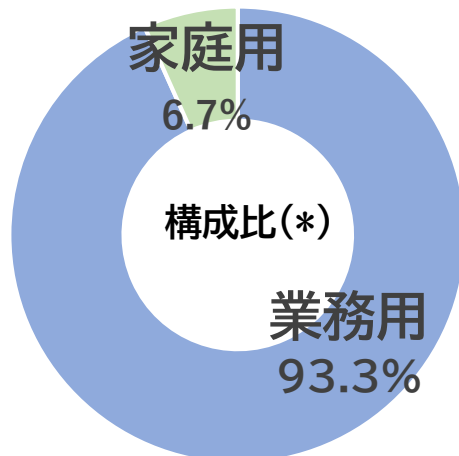
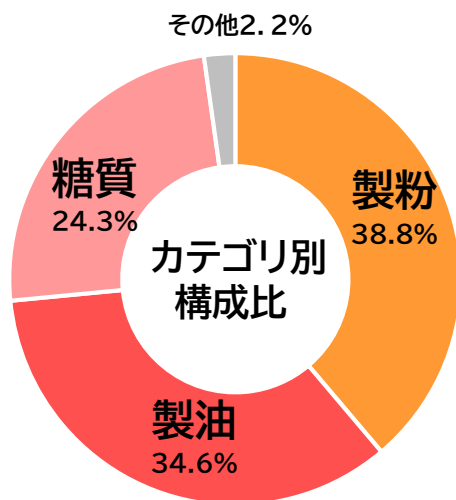
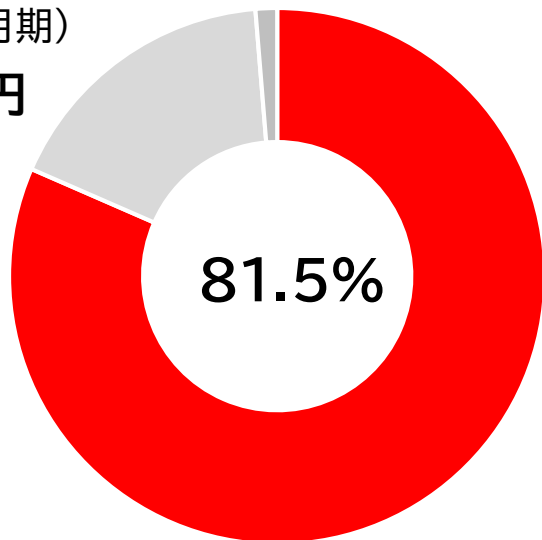
昭和産業グループのあゆみ

<p>創業期(1936年~) 深刻な食糧不足</p>	<p>60年~1980年代 需要拡大と食生活の多様化</p>	<p>1990年~2000年代 「食」ニーズの高度化</p>	<p>2010年~ ライフスタイル・価値観の変化</p>
<p>農産加工分野で一貫体制を構築し、農業の発展に貢献</p> <p>1936年 設立 創業者・伊藤英夫 </p> <p>食の多様化を見据えた挑戦と創意で進化</p> <p>1956年 ・4代目取締役社長・松本幸三 ⇒現在の昭和産業の礎を築く ・『結晶ぶどう糖』発売 </p> <p>1957年 『昭和のホットケーキの素』 発売 </p> <p>1960年 世界初「家庭用天ぷら粉」発売 「米国ロサンゼルスで SHOWA TEMPURA BATTER MIX」発売</p> <p>1961年 『昭和即席天ぷら粉』国内発売 →国内で大ヒット </p> <p>「天ぷら粉の昭和」 のブランドイメージを確立</p>	<p>食品コンビナートの建設による、 多品種安定供給の実現</p> <p>1961年 鶴見工場竣工 我が国初の臨海食品コンビナート完成</p> <p>1965年 船橋食品コンビナート完成 (現船橋工場) </p> <p>1970年 神戸食品コンビナート完成 (現神戸工場)</p> <p>1973年 現、本社ビル完成 </p> <p>1974年 鹿島工場竣工 </p> <p>1976年 敷島スターチを子会社化</p> <p>1983年 高級天ぷら粉 『天ぷら粉黄金』発売 </p> <p>1984年 炊飯用はい芽油カプセル 『お釜にポン』発売 </p>	<p>幅広い分野で商品開発を強化、時 代にマッチした商品を提供</p> <p>1991年 食品開発センターを開設</p> <p>1992年 『お肉をやわらかくするから揚げ粉』 発売 </p> <p> 1994年 特定保健用食品 『オリゴタイム』発売</p> <p>2000年 高オレイン酸ひまわり油 『オレインリッチ』発売 </p> <p>2002年 昭和冷凍食品を設立</p> <p>2005年 ・『ケーキのような ホットケーキミックス』発売 ・スウィングベーカリー設立 </p> <p>2009年 奥本製粉を子会社化</p>	<p>“穀物ソリューション・カンパニー” として独自の付加価値を創出</p> <p>2011年 『レンジでチンするから揚げ粉』発売 </p> <p>2014年 ・企業ブランドメッセージ発表 ・セントラル製粉に資本参加(2018年子会社化) ・中国での製粉事業に進出</p> <p>2015年 グランソールベーカリー設立</p> <p>2017年 長期ビジョン発表</p> <p>2018年 ・ガーデンベーカリーを子会社化</p> <p>2020年 ・台湾での製粉事業、鶏卵事業に進出 ・ポーソー油脂を子会社化 ・『健康こめ油』発売  ・サンエイ糖化を子会社化</p> <p>2022年 ・船橋プレミックス第2工場操業 ・『もう揚げない!! 焼き天ぷらの素』発売 </p> <p>2023年 ・辻製油と資本業務提携 ・『たっぷり大豆ミートのクリームソース』 発売</p> <p>2024年 ・昭和産業インターナショナルベトナムを設立 (2025年度プレミックス工場稼働予定)</p>

事業セグメント(売上高 3,463億円の構成比)

食品事業

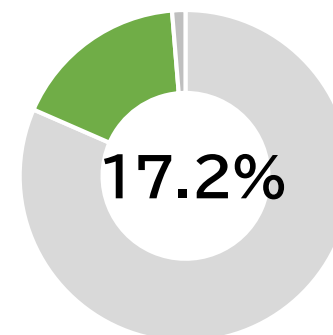
2023年度(2024年3月期)
 売上高 **2,824億円**



※昭和産業単体の食品セグメント売上高比

飼料事業

2023年度
 (2024年3月期)
 売上高 **594億円**



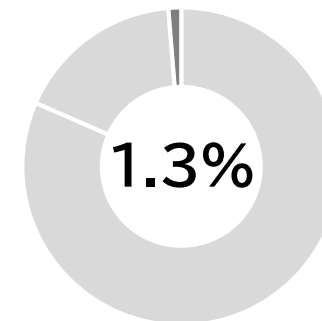
主な事業内容

- ・養鶏、養豚、養牛、養魚用の配合飼料の製造販売
- ・鶏卵の生産および販売



その他

2023年度
 (2024年3月期)
 売上高 **45億円**



主な事業内容

- ・輸入穀物の保管、荷役を行う倉庫業
- ・所有不動産の賃貸等を行う不動産業
- ・保険代理業、自動車などのリース業
- ・運輸業、アグリビジネス等

事業内容、販売先など

食品事業

製粉カテゴリ

主な事業内容

- ・パン、ケーキ、麺類などの用途に合わせた**小麦粉**の製造、販売
- ・天ぷら粉やホットケーキミックスなどの**プレミックス**や**パスタ**の製造、販売
- ・焼成パンビジネス(冷凍パン生地[※]の製造～焼成)

主な販売先

- ▶食品メーカー
パン、麺、菓子、冷凍食品等
- ▶中食(スーパーマーケット、コンビニ)
- ▶外食産業(ファミリーレストラン、居酒屋)
- ▶スーパー等(家庭用)



製油カテゴリ

主な事業内容

- ・天ぷらやフライ、ドーナツ、調味料などの**植物油**の製造、販売
- ・食肉加工、水産加工食品などに使われる**大豆たん白**の製造、販売
- ・自社の小麦粉・植物油を使用したタコ焼など**冷凍食品**の製造、販売

主な販売先

- ▶食品メーカー
調味料、菓子、冷凍食品等
- ▶中食(スーパーマーケット、コンビニ)
- ▶外食産業(ファミリーレストラン、居酒屋)
- ▶スーパー等(家庭用)



糖質カテゴリ

主な事業内容

- ・トウモロコシを原料とした**コーンスターチ**(でん粉)をはじめ、ぶどう糖や異性化糖、水あめなどの**糖化製品**の製造、販売
- ・麺の食感改良等に用いられる**加工でん粉**製品の製造、販売

主な販売先

- ▶食品メーカー
菓子、パン、麺、飲料、ビール、調味料
- ▶医薬品メーカー
- ▶段ボールメーカー



業界シェアについて

製粉業界

小麦粉販売数量

第3位 9.3%

■引用元

酒類食品統計月報2023年8月号

1位:日清製粉	39.1%
2位:ニッポン	24.4%
3位:昭和産業(単体)	9.3%
4位:日東富士製粉	7.1%

製油業界

植物油販売数量

第3位 9.8%

■引用元

酒類食品統計月報2023年7月号

1位:日清オイリオG	35.9%
2位:J-オイルミルズ	25.5%
3位:昭和産業G (ボーソー油脂含)	9.8%
4位:理研農産加工	3.0%

糖質業界

結晶ぶどう糖

シェアNO.1

(原料処理量 業界トップクラス)

■引用元

日本スターチ・糖化工業会

【同業他社(※)】

日本食品化工(東証スタンダード)
 加藤化学 (非上場)
 日本コーンスターチ(非上場)

※業界大手の東証プライム企業は当社のみ

食品メーカーとして 穀物の取扱量は日本一※

※当社調べ

1社で、4種類の穀物を扱う食品メーカーは当社のみ

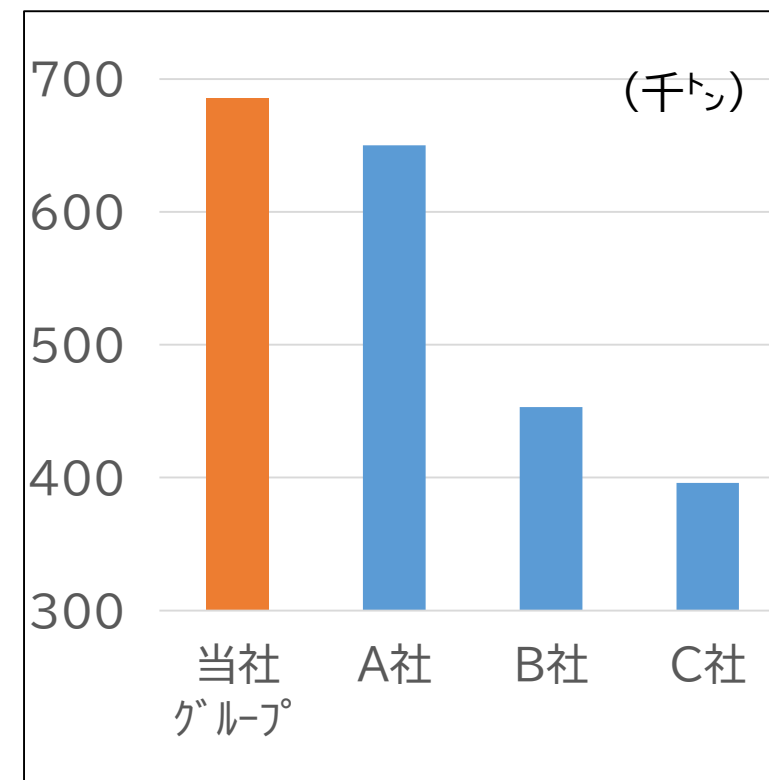
<取扱穀物>
4種類



当社グループ穀物サイロ収容能力、国内トップクラス※!!



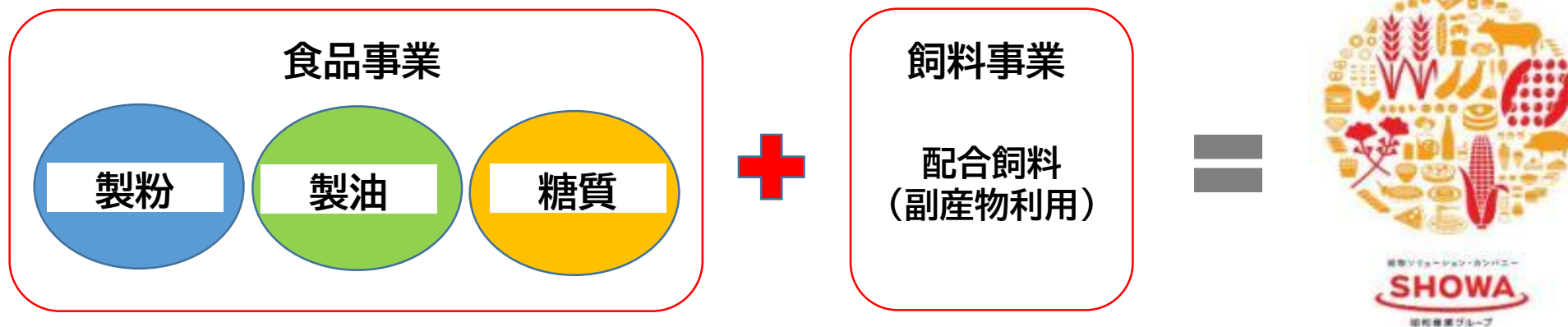
サイロ収容能力 68.6万トン



【平成19年度穀物サイロ実態調査結果報告(農林水産省)を基に当社にて算出】

4種類の穀物を徹底的に研究する「穀物のプロ集団」

多種多量の穀物をプラットフォームとした、幅広い事業展開

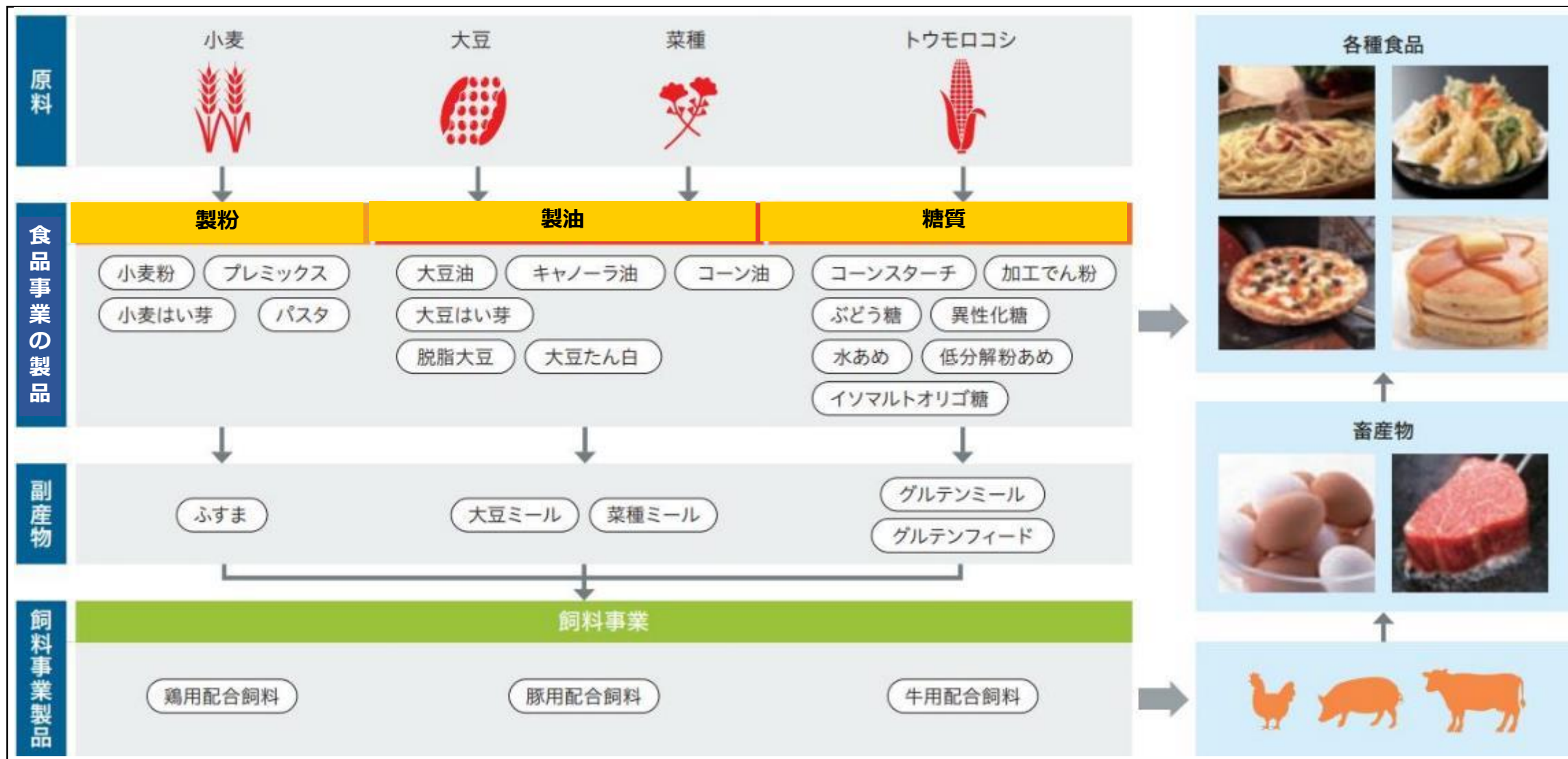


1つの企業グループで製粉、製油、糖質など複数の事業をもつ食品メーカー
(国内では当社のみ)



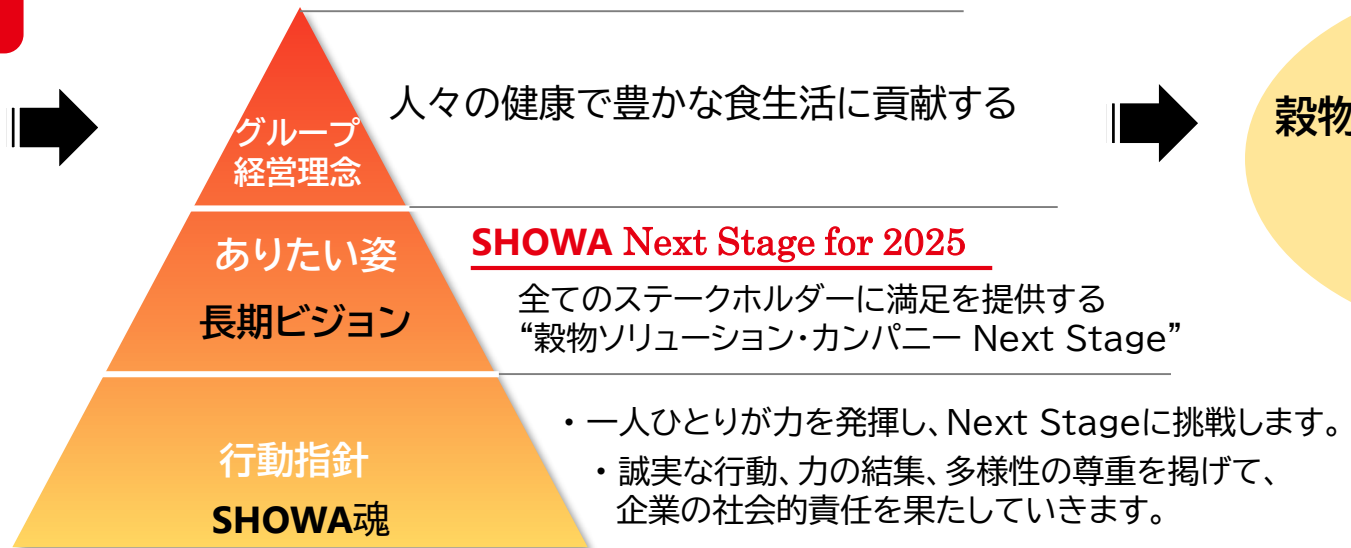
様々な業界に製品を提供し、多くのお客様に支えられています

『多様なお客様とのコミュニケーション』で穀物ソリューションを実現



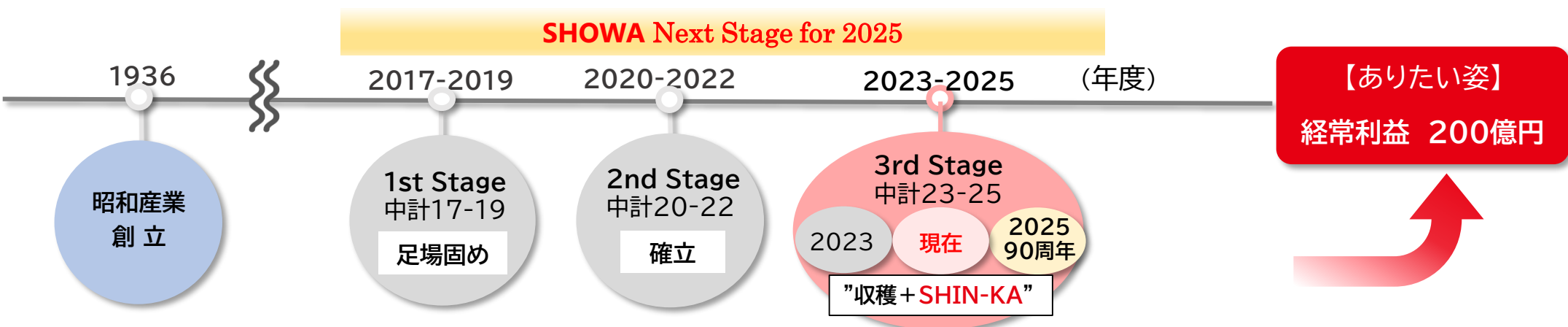
経営理念・長期ビジョン

経営理念

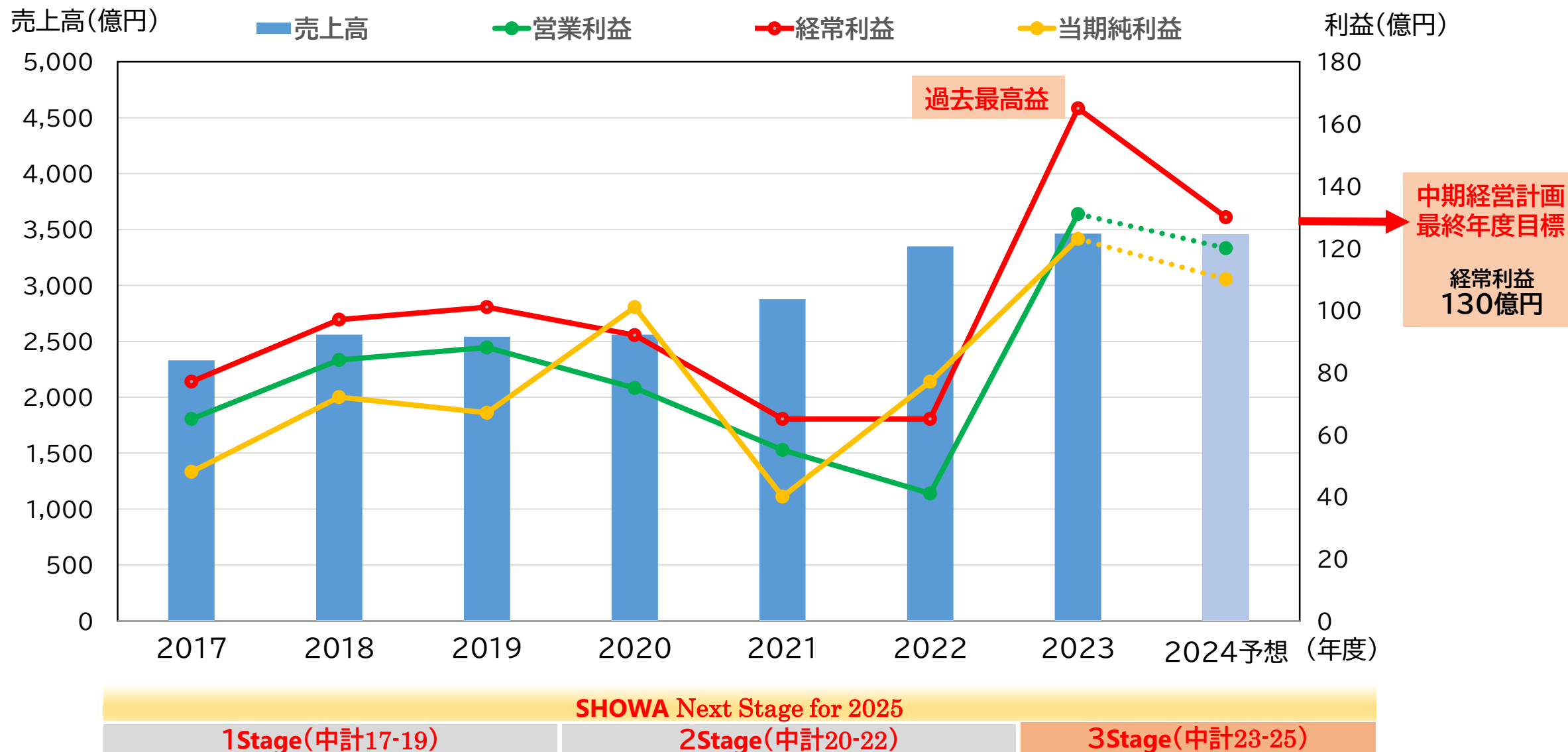


長期ビジョン

創立90周年を迎える2025年度の“ありたい姿”として、2017年に長期ビジョンを策定。この“ありたい姿”に向けて成長するために、3年間の中期経営計画を3次にわたり展開。



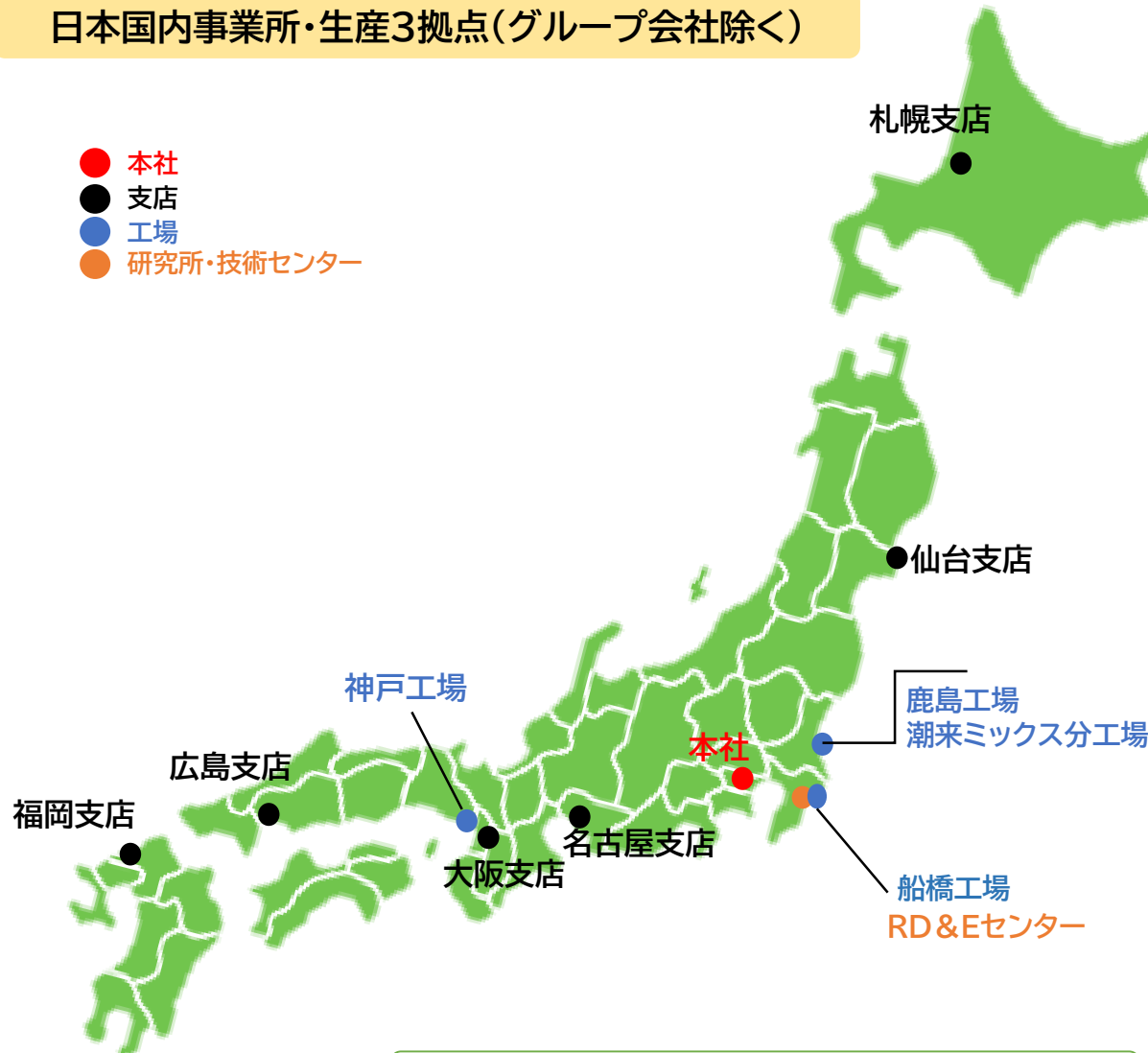
昭和産業グループの経営成績の推移



事業拠点

日本国内事業所・生産3拠点(グループ会社除く)

- 本社
- 支店
- 工場
- 研究所・技術センター



グループ会社: 43社(子会社28社、関連会社15社)

海外事業



中国

▶大成昭和食品

・小麦粉、プレミックスの製造及び販売



台湾

▶國成麵粉

・小麦粉の製造及び販売

▶中一食品

・鶏卵の生産・洗卵・選別、飼料の購入及び販売



バトナム

▶昭和産業インターナショナルバトナム

・プレミックスの製造及び販売
 (2025年度操業開始予定)

グループ会社紹介

● 連結子会社 ▼ 非連結子会社 ■ 持分法適用会社 □ 持分法非適用会社

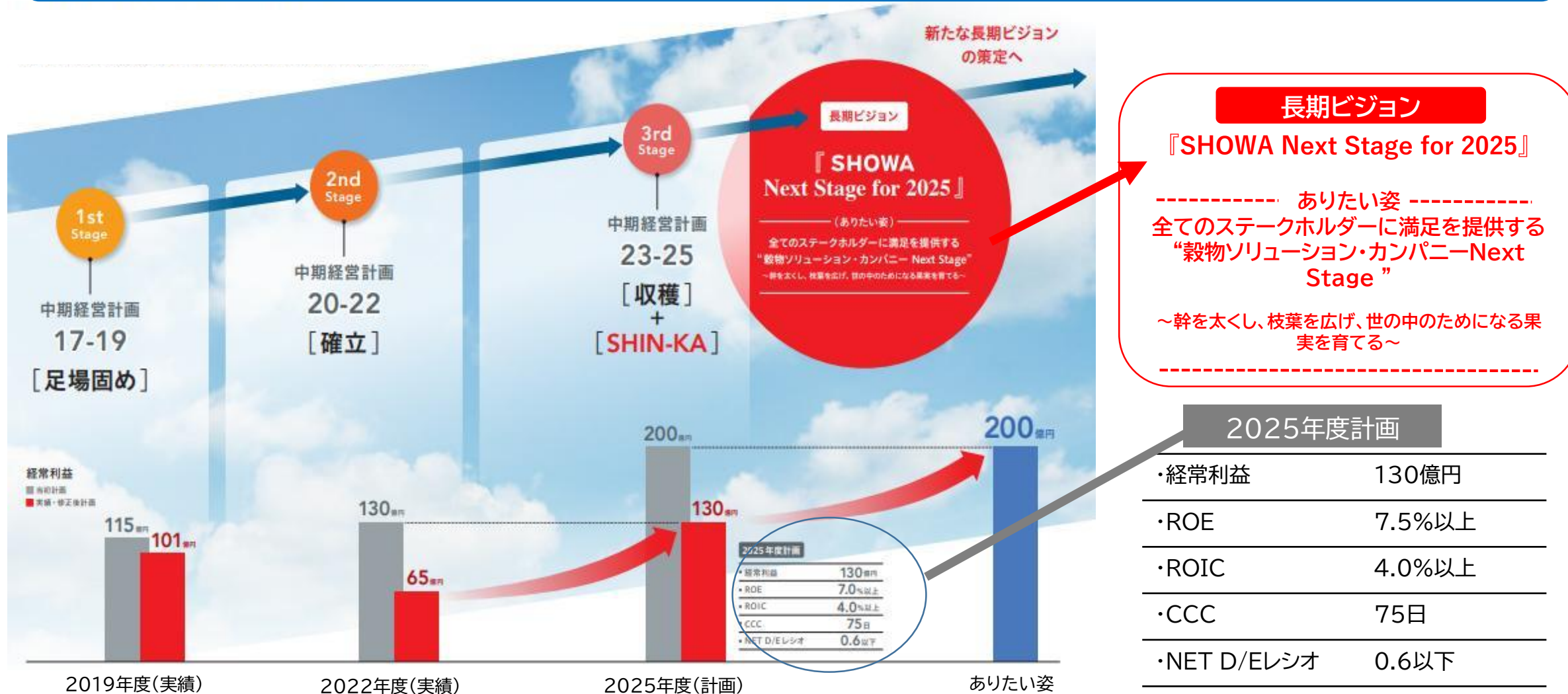
会社名	事業内容
● 昭産商事株式会社	食料品及び飼料の卸売、保険代理業ほか
● 敷島スターチ株式会社	でん粉・加工でん粉・糖化製品の製造及び販売
● 九州昭和産業株式会社	配合飼料の製造及び販売、畜産物の販売
● 奥本製粉株式会社	小麦粉・プレミックス・パスタなどの製造及び販売
● 木田製粉株式会社	小麦粉・プレミックスの製造及び販売
● 株式会社内外製粉	小麦粉の製造及び販売
● 昭和冷凍食品株式会社	冷凍食品の製造及び販売
● 昭和鶏卵株式会社	鶏卵の洗卵・選別、飼料の購入及び販売
● 昭産開発株式会社	商業ビルなど不動産の賃貸業
● 株式会社昭産ビジネスサービス	昭和産業グループ各社に対する経営コンサルティング業ほか
● 株式会社ショウレイ	冷凍・冷蔵倉庫業
● 昭産運輸株式会社	自動車運送業及び荷役業
● 株式会社スウィングベーカーリー	パンの製造及び販売
● 株式会社オーバン	和菓子材料及び機械の卸売
● グランソールベーカーリー株式会社	冷凍パン生地の製造及び販売
● セントラル製粉株式会社	小麦粉の製造販売
● ガーデンベーカーリー株式会社	パンの製造及び販売
● タワーベーカーリー株式会社	パン・冷凍パン生地の製造及び販売
● スターベーカーリー株式会社	不動産賃貸業
● ボーソー油脂株式会社	油脂、脱脂粕の製造及び販売
● 長岡油糧株式会社	油脂、脱脂粕の製造及び販売
● クミアイ油脂株式会社	石鹼、脂肪酸の製造及び販売
● ムサン油脂株式会社	油脂、脱脂粕の製造及び販売

会社名	事業内容
● 南日本コム油株式会社	油脂、脱脂粕の製造及び販売
● 東京油脂工業株式会社	油脂、脱脂粕の製造及び販売
● サンエイ糖化株式会社	糖化製品・乳酸菌・ビフィズス菌の製造及び販売
● 昭和産業インターナショナルベトナム	プレミックスの製造及び販売
▼ 岡田運送株式会社	貨物自動車運送業
▼ Showa Sangyo Vietnam Co., Ltd.	食品工場向け技術コンサルティング業
▼ 有限会社キミシマファーム	鶏の育成による鶏卵の生産
▼ 株式会社奥隅商店	食料品及び飼料、肥料等の卸売
■ 鹿島サイロ株式会社	穀物サイロ業
■ 志布志サイロ株式会社	穀物サイロ業
■ 新日本化学工業株式会社	食品用酵素の製造販売
■ 名古屋埠頭サイロ株式会社	穀物サイロ業
■ 國成麵粉股份有限公司	小麦粉の製造及び販売
■ 中一食品股份有限公司	鶏卵の生産・洗卵・選別、飼料の購入及び販売
■ 辻製油株式会社	油脂、脱脂粕の製造及び販売
□ 鹿島飼料株式会社	配合飼料の製造販売
□ 田中製餡株式会社	和洋菓子の製造販売
□ 東葛食品株式会社	中華点心(饅頭)の製造販売
□ 共同輸送株式会社	自動車運輸業
□ 大成昭和食品(天津)有限公司	プレミックスの製造販売
□ 株式会社ケイエスファーム	養鶏農場の運営
□ 三重県製粉サイロ株式会社	穀物サイロ業
□ ファイトケミカルプロダクツ株式会社	植物由来の機能性素材の製造・販売

Ⅱ. 昭和産業グループの成長戦略

長期ビジョンの戦略概要

創立90周年を迎える2025年度の「ありたい姿」として、長期ビジョン『SHOWA Next Stage for 2025』を策定。2017～2025年度の9年間、3年間の中期経営計画を3次にわたり展開しています。



・経常利益	130億円
・ROE	7.5%以上
・ROIC	4.0%以上
・CCC	75日
・NET D/Eレシオ	0.6以下

「中期経営計画23-25」5つの基本戦略

① 基盤事業の強化

1. 穀物ソリューションの進化
ーワンストップ型営業組織への変革による
販売力強化
2. グループ連携による事業拡大と収益力強化
3. 商品構成の最適化
4. 差別化戦略による付加価値商品の拡販
5. 安定調達の強化

② 事業領域の拡大

1. ASEAN地域における既存事業の強化と
新たな事業展開による海外事業の拡大
2. 輸出事業の強化
3. 冷凍食品事業の拡大
4. 新規事業への挑戦
ープラントベースフード(植物由来食品)
ーファインケミカル、オレオケミカル

当社グループの持続可能を支えるサステナビリティ経営の深化

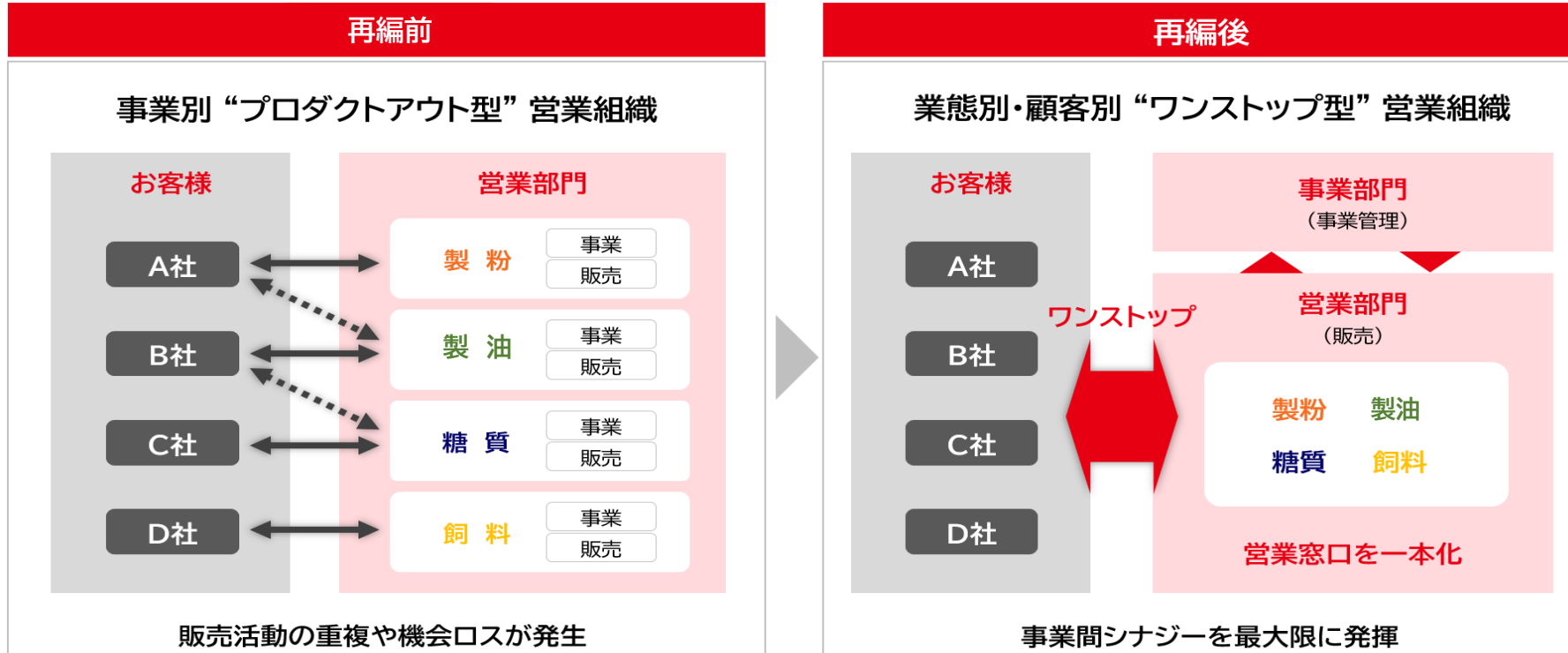
③ 環境負荷の低減

④ プラットフォームの再構築

⑤ ステークホルダー
エンゲージメントの強化

穀物ソリューションの進化 – 創業以来の抜本的営業組織改編 –

基本戦略① 基盤事業の強化



新規取引件数(※)

※既存取引先への新たな取引を含む



改編前比
196%
UP

付加価値商品販売量

●国内産麦小麦粉



改編前比
131%
UP

●機能性油脂(半流動性油脂)



改編前比
152%
UP

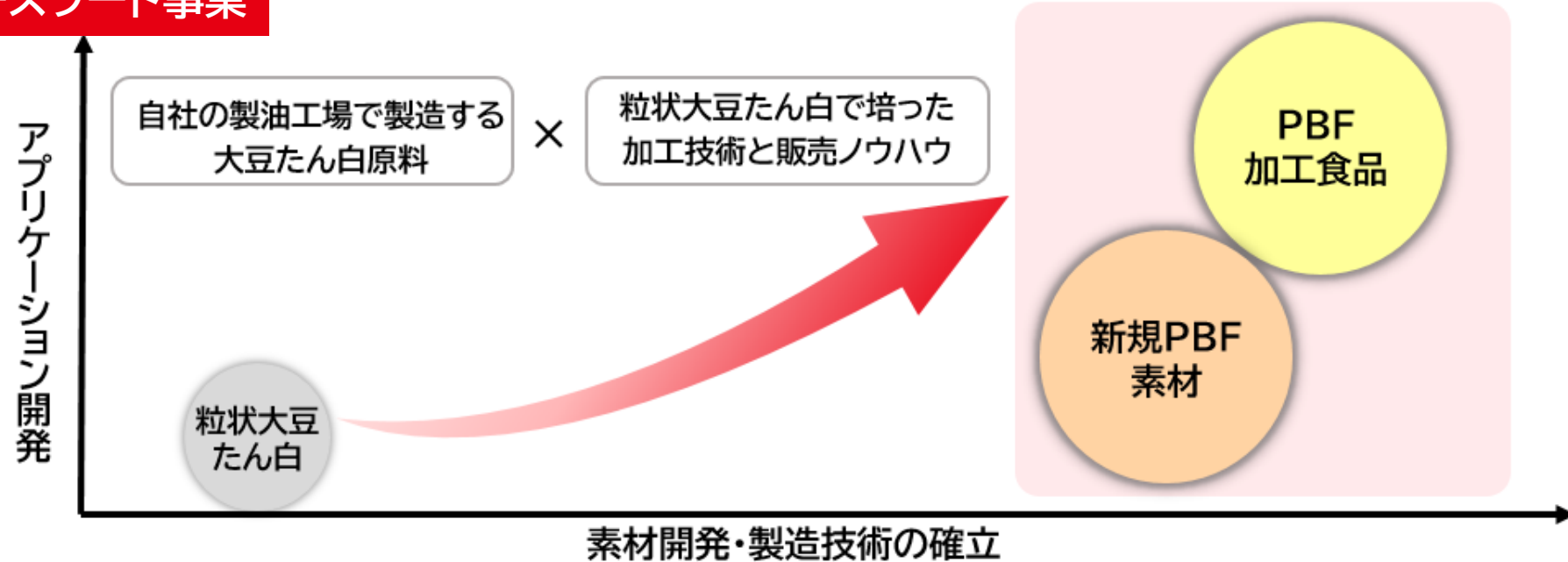
新規事業への挑戦

基本戦略② 事業領域の拡大

新たな付加価値商品の研究・開発を強化し、将来の収益基盤となる新規事業を推進

① プラントベースフード事業

新たな素材や用途の開発により、国内外で拡大する需要を的確に捕捉



② ファインケミカル事業

こめ、大豆、ひまわり由来の機能性素材開発により、健康食品分野、化粧品分野を強化

③ オレオケミカル事業

こめ油、ひまわり油の製造過程で発生する副産物を活用したオレオケミカル事業を推進

①植物性食材の新ブランド「SOIA SOIYA (ソイアソイヤ)」

食の多様性、サステナブル、健康志向の高まりで注目される植物性食材
肉の単なる「代替」というこれまでのイメージを覆す、大豆たん白新商品を提案

SOIA
SOIYA

“思いのまま”ができる食材



HMSP (High moisture solution protein)



新規事業への挑戦(ファインケミカル事業・オレオケミカル事業)

②事業領域の拡大を推進

こめ油 副産物



スーパービタミンE
 ビタミンE
 パラフィン
 ステロール
 スクワレン
 脂肪酸(非可食)
 油脂

反応分離技術
 イオン交換樹脂法



プロトタイプのプロント
 (2020年稼働)

スーパービタミンE
 (食品・化粧品)

高純度試薬



ビタミンE
 (食品・化粧品)

サプリメント



バイオパラフィン
 (化粧品)



植物ステロール
 (食品・化粧品)

食品・化粧品素材



バイオ燃料
 (発電用・軽油代替)

発電用燃料



イオン交換樹脂法を活用したこめ油副産物からの機能性素材製造

「中期経営計画23-25」経営戦略 <サステナビリティ経営>

基本戦略③ 環境負荷の低減

「昭和産業グループ環境目標」の確実な達成に向け、「中期経営計画23-25」の最終年度となる2025年度の目標値を設定

KPIと目標

	基準年	中期経営計画目標 (2025年度)	昭和産業グループ環境目標	2023年度実績
CO ₂ 排出量削減	2013年度対比	▲30%以上	2030年目標 ▲46%以上	基準年度比 27%削減
食品ロス削減	2018年度対比	▲30%以上	2025年目標 ▲30%以上	基準年度比 33.6%削減
水使用量削減 (原単位)	2019年度対比	▲9%以上	2030年目標 ▲12%以上	基準年度比 8.3%削減
NEW プラスチック使用量削減 ^{※1} (原単位)	2013年度対比	▲7%以上	2030年目標 ▲25%以上	基準年度比 6.2%削減

※1 化石燃料由来容器包装材に使用するワンウェイプラスチック

- ・2023年度 : 製油工場環境へ配慮した自然冷媒を用いた冷却方式と真空発生装置を採用 → 1,000tの削減
- ・2024年度(予定) : 船橋工場、潮来工場、RD&Eセンターの購入する電力をカーボンニュートラルに切替 → 7,500tの削減(船橋6,500+潮600+RD&E400)
- ・2025年度(予定) : バイオマス発電ボイラ新設 → 3万7,000tの削減

「中期経営計画23-25」経営戦略 <サステナビリティ経営>

基本戦略④ プラットフォームの再構築

1. ROIC導入による事業ポートフォリオマネジメントの高度化

外部環境の変化に左右されにくい収益構造へと変革

2. 人的資本経営の推進

D&Iのドラスティックな推進	女性管理職比率: 2025年度10%以上 ・「えるぼし(2つ星)取得 ・2024年4月現在 ・女性管理職比率 9.6%
----------------	---

戦略的人的資本投資の促進

従業員エンゲージメントの向上

3. デジタル戦略の推進

- 主要施策① 多角的分析DB・ダッシュボード導入
- 主要施策② DX推進人財育成

基本戦略⑤ ステークホルダーエンゲージメントの強化

従業員

お客様・お取引先

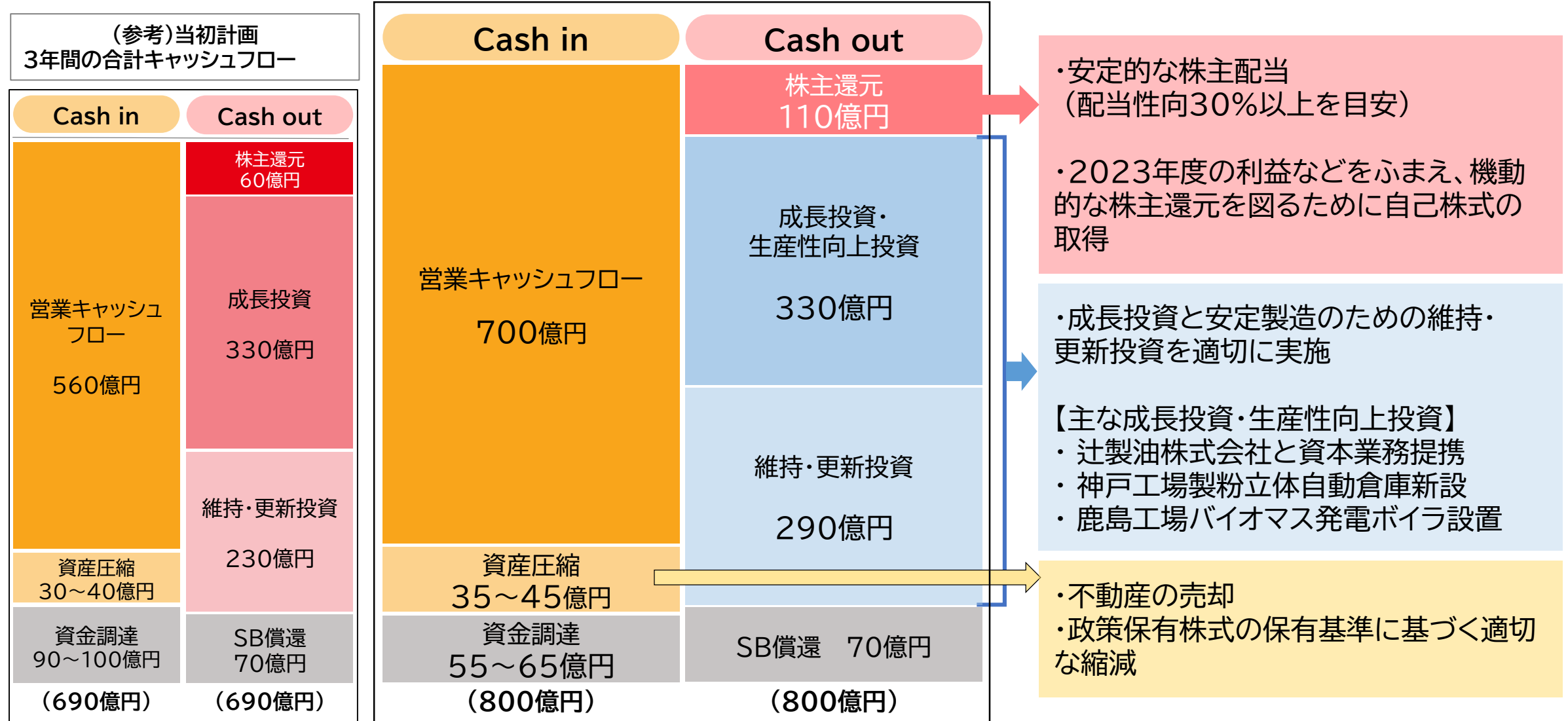


株主・投資家

地球環境・地域社会・
NGO/NPO

資金配分計画 [3年間累計] (2023年度～2025年度)

2023年度(2024年3月期)の実績および2025年3月期の見通し、ならびに資本政策をふまえて資金配分計画を見直し



設備投資(生産性向上投資)

① 物流機能の改善および効率化に向けた取り組み

物流の2024年問題

- ・労働力不足
- ・ドライバーの労働時間への上限規制適用

グリーン物流

輸送拠点の集約などによるCO2排出量削減

② 環境負荷の低減への取り組み

鹿島工場に
再生可能エネルギーを活用した
バイオマス発電ボイラを新たに導入

年間約3万7,000tの
CO2排出量を削減

神戸工場内の製粉立体自動倉庫を
更新・新設
【約35億円】

グループ全体で2013年度比
37%以上の削減
【約35億円】

Ⅲ. 業績・配当予想

2025年3月期中間期 業績ハイライト

売上高

1,685億円

減収 ▲70億円
 増減率 ▲4.0%

営業利益

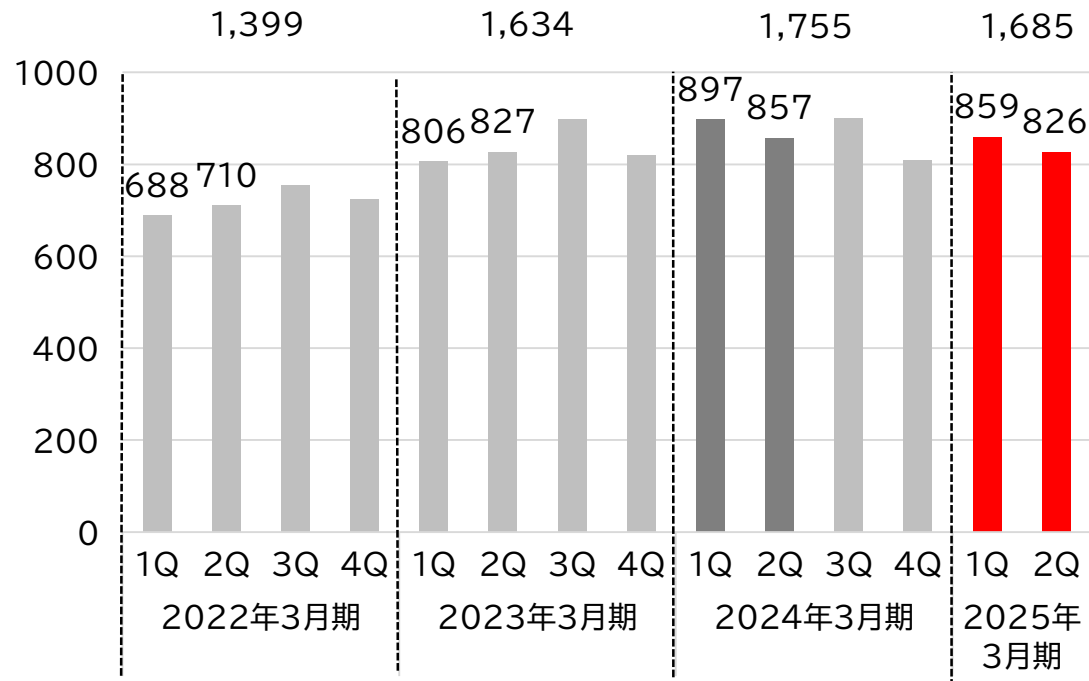
68億円

減益 ▲4億円
 増減率 ▲6.6%

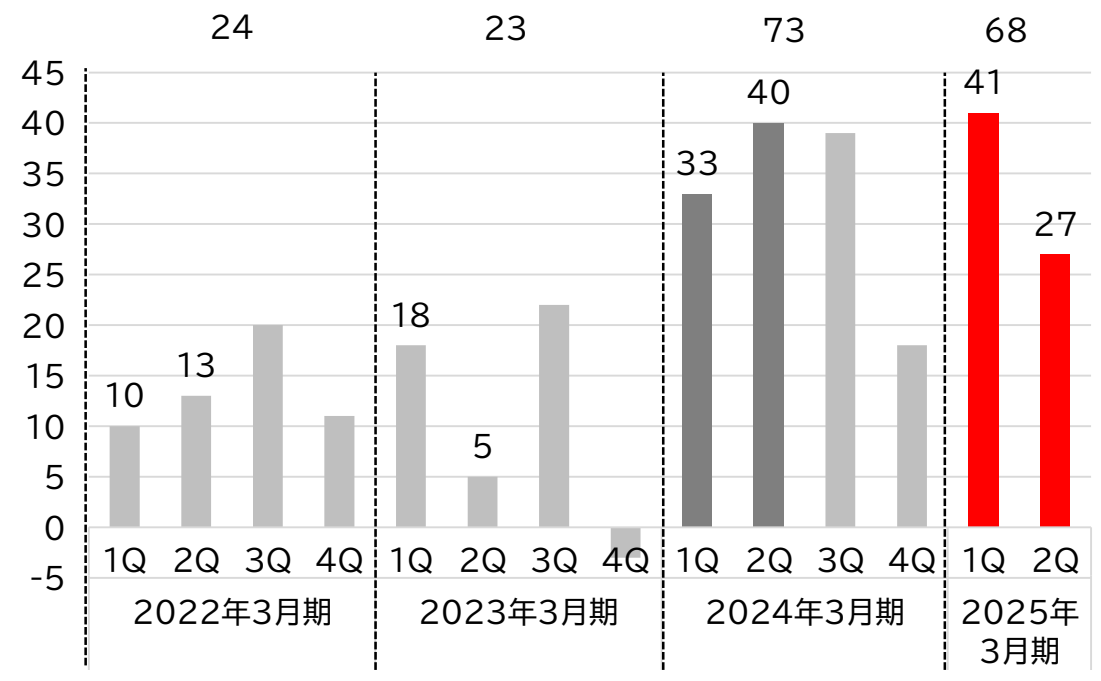
・販売数量は増加するも原料価格下落に伴う販売価格の低下により減収

・販売数量は増加するも販売価格でのマイナス分と売上原価でのプラス分がほぼ相殺
 ・人件費および物流費等の販管費増加により減益

(単位:億円)



(単位:億円)



2025年3月期 業績予想

- ・売上高は、3,460億円とほぼ前年並みを予想
- ・営業利益は、物流費の上昇、人件費の増加などにより、前年同期比11億円の減益を予想

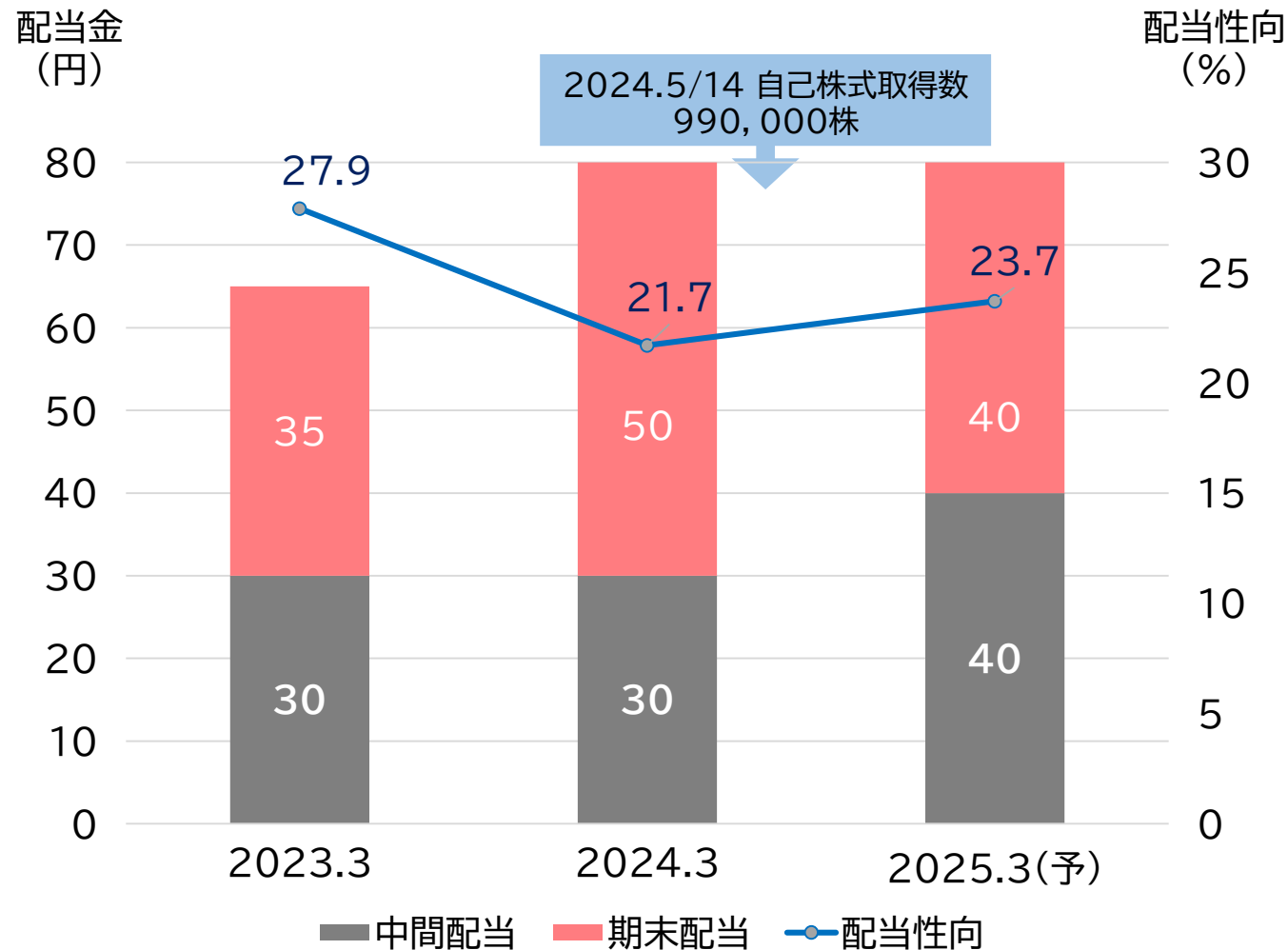
(億円)		2024年3月期	2025年3月期 (予想)	増減 (前期比)	増減率 (前期比)
売上高	食品	2,823	2,830	6	
	飼料	594	580	▲14	
	その他	45	50	4	
	計	3,463	3,460	▲3	▲0.1%
営業利益	食品	128	115	▲13	
	飼料	7	8	1	
	その他	13	13	0	
	全社費用他	▲17	▲17	-	
	計	131	120	▲11	▲8.7%
経常利益		165	130	▲35	▲21.5%
当期純利益		123	110	▲13	▲11.0%

株主還元について

(利益の配分)

将来の企業成長に必要な投資と株主還元の充実を意識しながら
 配当性向30%程度を目安に

安定的な配当を継続



IV. 株主優待制度・お知らせ

株主優待制度

弊社の事業をより一層ご理解いただくことを目的として
 株主優待制度を導入しております

対象	毎年3月末現在の株主名簿に記載された100株以上保有の株主様		
内容	100株以上200株未満 1,000円相当の当社 家庭用商品詰め合わせ	200株以上1,000株未満 3,000円相当の当社 家庭用商品詰め合わせ	1,000株以上 5,000円相当の当社 家庭用商品詰め合わせ
商品内容※	<p>■1,000円相当の例</p> 	<p>■3,000円相当の例</p> 	<p>■5,000円相当の例</p> 
※ 商品内容は 毎年変更あり			
発送時期	毎年6月下旬～7月上旬を予定		

株主様とのコミュニケーション

報告誌

「株主のみなさまへ」の発送(中間・期末の年2回発送)

株主のみなさまへ
第123期 上半期報告書
2023年4月1日 ▶ 2023年9月30日

社長インタビュー

トップインタビュー

株主の皆様には、日頃より当社事業へのご理解とともに格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

代表取締役社長執行役員
塚越 英行

第123期上半期の状況について教えてください。
第123期上半期の業績は、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、行先別業が顕著され、人流の回復等により外食や飲料用途等の需要が回復してきたことや、

正確な価格での販売に注力したことにより、惣菜増益となりました。これらの結果、売上高1,755億円(前年同期比107.4%)、連結経常利益85億円(同258.4%)となりました。(※詳細はP.31「財務インフォメーション」をご参照)

本年4月よりスタートした**3rd Stage「中期経営計画23-25」**の進捗についてお聞かせください。
当社は、創立90周年を迎える2025年度のグループの「ありたい姿」を長期ビジョン「SHOWA Next Stage for 2025」として掲げ、全てのステークホルダーに満足を提供する「穀物ソリューション・カンパニー」の実現に向けて中期経営計画を2017年度から3回にわたり展開しています。
本年4月よりスタートした3rd Stage「中期経営計画23-25」は、2025年度の「ありたい姿」に向けた「長期ビジョン」の継ぎ上げとなる3年計画となります。新たな基本コンセプト「SHOWAの“SHIN-KA”宣言～90年、そしてその先へ～」の下、新たな財務指標とともに5つの基本戦略

Contents
P.1 トップインタビュー
P.2 社長インタビュー
P.3 ESGの取組
P.5 オンラインからの声

決算の概要



オンライン商品紹介



<https://www.shop-showasangyo.com/>

インターネット

ホームページ

<https://www.showa-sangyo.co.jp>



⇒「株主・投資家情報」のページで各種資料を掲載

昭和産業SNS公式アカウント

X (旧Twitter) 昭和産業【公式】(@showasangyo_co)

Instagram

昭和産業【公式】(@showasangyo_co)

YouTube

昭和産業公式チャンネル(@ShowaSangyoChannel)

大阪・関西万博の会場整備参加サプライヤーとして協賛

協賛 1

穀物の一次加工で発生する副産物

【原料】
菜種、トウモロコシ



【副産物】
菜種粕、コーングルテンミール



【成型イメージ】
板状に成型



ギャラリーイメージ(2024年5月30日現在)

協賛 2

バイオマスを配合したごみ袋 「大地のMino-Re:」



スポンサード関連



1991年Jリーグ発足当時より
鹿島アントラーズとスポンサー契約



2018年よりサッカークラブいわきFC(現J2)と
パートナーシップ契約



2022年よりプロスノーボーダー岩渕麗楽選手と
スポンサー契約

主な戦績: 2022年 北京オリンピック ビッグエア4位入賞
2024年 ワールドカップ スロープスタイル スイス 優勝



見通しに関する注意事項

本資料は、現時点で入手可能な情報や、合理的と判断した一定の前提に基づいて策定した数値であり、潜在的なリスクや不確実性などを含んでいることから、その達成や将来の業績を保証するものではありません。

また実際の業績等も本資料における見通し、計画等とは大きく異なる結果となる可能性がありますので、本資料のみに依拠して投資判断を下すことはお控え下さい。

なお、将来における情報・事象及びそれらに起因する結果にかかわらず、昭和産業グループは当中期経営計画を見直すとは限らず、またその義務を負うものではありません。